

## 住田健二：(大阪大学名誉教授・元原子力安全委員会委員長代理)

「阪神大震災のあと、耐震指針を見直したとき、『問題はない』という見解になりました。今思い出せば、あのとき『自分は少数派だから、意見が通らないと思って強くは発言しなかったが、基準は見直すべきだ』と言ってきた学者がいました。1人ではなく、何人も。みなさん、原子力に利害のない学者でした」

(「アエラ臨時増刊・原発と日本人」5/15日号より)

■■後悔先に立たず、ですね。

## 大槻義彦：(早稲田大学名誉教授)

「自動車事故で年に1万人近くの人が亡くなっていて、安全だとはだれも思っていない。しかし、今の社会では車はどうしても必要です。原発もそれと同じこと」

「チェルノブイリのような凄まじい汚染の後でも、周辺の大人にがんや白血病が増えたという調査結果はないんです」

(「週刊現代」4/16日号より)

■■車と原発を比較すること自体間違っているし、チェルノブイリについて理解不足。今大人に甲状腺がんが増加中だし、2006年の時点で、ロシア・ウクライナ・ベラルーシ三国の健康被害者は合計700万人にのぼる。